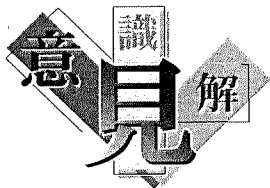


東京が招致を目指す2020年夏季五輪の開催地を決める9月の国際オリンピック委員会(IOC)総会には、レスリング、野球、ソフトボール、スカッシュから実施競技一つが決定される。IOCは9月の理事会で26の中核競技からレスリングを除く。その後、実施競技候補三つに絞った。北京五輪のソフトボール、女子ソフトボール、女子選手、アナネ、北京両五輪レスリング代表の池松和彦氏、福岡市スカッシュ協会の福岡順子氏、長に競技の魅力や実施決定への勝算を語った。

## 五輪実施はどの競技に？



IOC総会 年に1度開催。今年9月6日から10日までアルゼンチン・ブエノスアイレスで開かれ、7日に2020年夏季五輪開催地を決定。翌8日に採用候補の中から実施する1競技を決定。5月の理事会では約100人のIOC委員が投票し、3競委半票で通り、野球、ソフトボールが11回目まで入った。総会では約100人の投票で決定。1回目では最少得票の都市を除いて2回目を行う。

### 記者メモ

「プロ野球中継で『試合の途中で皆さまでお別れです』という言葉をよく聞く。五輪復帰へ競技時間の長さが懸念材料の野球は「放送枠」に収めるため、大胆なルール改正を企画している。9回を7回に短縮し、延長では最初から走者を塁に置くタイムリプレイ制も検討されている。9回までの攻防や延長も視野に戦略を練り、戦力充実を計る競技の根本を揺るがさないか不安だ。

五輪は1984年のロサンゼルス大会から商業主義にかじを切った。重視されるのは「テレビ受け」。レスリングもスカッシュも中継を意識したルールの改正を行った。選手、子どもたちの夢に関わる重大な決定だ。放映権料、観客数だけでなく、競技の本質を損なわない議論を求めたい。(向吉二郎)



福岡大レスリング部コーチ 池松 和彦氏

## 世界で最も歴史がある

を走るイメージ、かなりきついな。マントをあれはきついな。でも、習って鍛えた粘り強さだ。五輪での位置づけは、

「レスリングは古代五輪の時代から行われていたといわれる。近代五輪でも1906年の第1回(アテネ)大会以降、

警告が出やすくなった。警告は相手に1点加算され、選手たちはより攻撃を重視し、試合がスピードになってきた。

「ファンへのメッセージを。『ロンドン大会でメダルを獲得した男子の米満達弘、女子の吉田沙保里には、誰にも負けないタックルがある。どの選手にも得意技があり、それぞれ試合の中で繰り出すかを注意して観戦すれば、より身近に感じる。女子は吉田をはじめ、伊調馨や浜口京子ら特定の選手が強すぎる時代が続いた。次の五輪までどの階級で世代交代が起きるか注目される。』(聞き手は大塚社)

「勝者はこれから。今の競技が残ればいいのだが。複雑な心境。天命を待つというか、神のみぞ知る。」

### 競技の魅力は

「何よりの魅力は野球以上のスピード感。北京五輪当時は1点を争う緊迫した試合が多かったが、今はハットが改良されたボールも飛ばすようになった。点の取り合いも増え、初めて見る人も面白い。」

### 普及への取り組みは

「選手などに限られてはいるが、国内でのソフトボール教室やビル配りに積極的に参加してきている。海外大会に出た際には開

北京五輪ソフトボール金メダリスト 上野由岐子氏



## スピード感が観客魅了

「日本ソフトボール協会として日本野球協会と連携する。なご五輪開催活動が盛んだ。IOCが評価対象とする競技の魅力や可能性を感じる。」

「プロ野球や都市対抗野球などでもPRチラシで呼びかけた。私もできる限りの協力をしていく。」

「道具が必要でお金がかかるのが、この競技の難点。海外に比べ、日本は恵まれた環境にある。日本ソフトボール協会ではウチダなど伝道者を送っている。グローバルな視点で近ければ興味を持ってもらえる。小さな積み重ねが大事。世界に目を向けていかないと、再び五輪を狙う。」

「北京五輪までは1分1秒ももったいないと練習だけで自分を追い込んできた。だが経験を次世代に伝えていくことも役割。子どもたちのために復活してほしい。五輪の舞台に立てれば理想だが1年1年が勝負。先はまだ考えていない。」

「五輪復帰へアピールを。」

「選んでよかったなという競技としていきたい。仮に外れてもソフト自体が消えるわけではない。どんなに時間がわかってもし希望を忘れず普及活動が続ける。もちろん選ばれると信じている。(聞き手は大塚社)

「スカッシュは、日本ではまだ、どんな競技か知らない人も多い。あらためて説明を。」

「案内で行う。テニスのようなラケットと小さなゴムボールを使ったスポーツ。縦9・75、横6・4、高さ5・64の4面の壁と床に囲まれたスペースで、2人のプレーヤーがボールを打って楽しむ競技だ。狭いコートで弾まないゴムのボールを打ち合うスカッシュの運動量はテニスの2倍とも言われている。」

福岡市スカッシュ協会副会長 福岡 順子氏



## 「一瞬の快感」が手軽に

「年代前半に普及が始まり、19世紀初頭、囚人が壁に向かってボールを打っていたのが起源とされている。日本では1970

「男女や年齢を問わず、手軽に楽しめるスポーツということだ。一方でトップレベルの選手のスピード感はずく、近所で見ると驚く方も多い。実際にやると、初心者も数分でたくさんになるが、上達して軌道をコントロールできるようなと楽しくなってくる。アマチュアレ

「実を言うと、昨年開催されたロンドン五輪の競技採用されなかったことが関係者にはショックだった。ロンドンには雑音の地だから今回はレスリング、野球、ソフトボールという日本での注目度が高い競技とともに残ったから、逆にマスコミに多く報道されて、体験レッスンを受けたいという問い合わせが増えている。候補に残った、と

「実施競技に残る勝負は。『スカッシュはこれまで五輪競技の経験がなく、選ばれるのは難しとなっている。日本での知名度は低いが、世界では18以上の国や地域で約7千万人の競技人口がいるとされ、可能性は十分にある。国内では競技人口の方が愛好者は10万人程度だが、特にシニア層が日本は不成分。選ばれば、その育成面での支援が各方面から得られやすくなるのでは、と期待している。』(聞き手は内門博)